

おおせっからんど便り

NPO 法人おおせっからんど
第 35 号 2025 年 10 月



ズグロミソゴイ 写真：東 信行

ヒトの作った環境と…

東 信行（弘前大学農学生命科学部 教授・学部長）

もともと動物行動学の研究者を目指していた私の興味は、次第に「ヒトのつくった環境と野生生物」の関係にも広がって行き、今に至っています。青森には仏沼はもとより、たくさんのため池や草地、農地に多くの野生生物が生息しています。その起源は氾濫原の生き残りなど、プロセスは様々なのだと思いますが、鳥類は脊椎動物の中では環境に対する応答速度が速いなど感じています。前任地の愛知県ではキャベツ畑ではツバメチドリが繁殖し、埋め立てられた港湾地域ではベンツの看板の横にコアジサシのコロニーがあるなど、そのしたたかさに驚かされました。一方で、現在危機的な状況にあるシマオジなど、どう手を差し伸べたらいいのか迷う対象もたくさんいたりします。研究者の気持ちとしては、科学的に解決を目指したいところですが、それでは間に合わない状況です。鳥類にとっての救いはおおせっからんどや野鳥の会などの団体が活発に活動しているところで

す。これからも様々な立場の人間が協力しあい、これを継続することこそ重要なのだと思います。

先日台湾に訪れた時の光景を紹介します。廃棄された養殖池がもとなる湿地にできたムラサキサギのコロニー、台北の街中にあるゴミ捨て場を再生した公園を闊歩するズグロミソゴイ(上の写真)や営巣するゴシキチョウ、サギ類のコロニー、そしてそれらをうれしそうに眺めている市民。いずれもわずか数十年でできた環境です。コロニーを排除するどころか、池の前にギャラリーができて皆で眺めている様子に、日本との違いを感じました。

東 信行（あずまのぶゆき）

1962年北海道空知郡生まれ。山の中育ちのため、鳥との付き合いは森林の種類や社宅の裏にあったダム湖に来る鳥たちくらいで、子供のころは手の届く昆虫や魚のほうに惹かれましたが、札幌の高校時代には生物部と写真部に入り、野幌森林公園や石狩川とその支流に出かけるようになり、視界が開けました。大学院以降は海洋研究船にもずいぶん乗って海鳥も見ようになり、いまでは世界中どこに行く時でも双眼鏡を持っています。

2025 年度オオセッカ一斉カウントの調査結果

高橋 雅雄（NPO 法人おおせっからんど 理事）

生息鳥類個体数調査（オオセッカ一斉カウント）は、① 仏沼のオオセッカの個体数と分布の変動と、②繁殖期の鳥類相、特に絶滅危惧種の生息状況を明らかにすることを目的に、1982 年から断続的に、2003 年から継続的に実施している、当法人の最も重要な活動の 1 つです。仏沼を 14 調査区に分け、当法人会員を中心とした数名の調査チームが各担当区を早朝 2-3 時間ほどくまなく歩き、確認できた全種全羽を記録して集計します。2008 年からは、大間町～八戸市の青森県東部全域（下北・三八上北）で、オオセッカとコジュリンの個体数と分布も同時に調べています。毎年 6 月最後の日曜日に開催し、今年は 6 月 29 日に実施しました。日本野鳥の会本部・北里大学自然界部・岩手大学・北海道教育大学などから計 50 名がご参加くださいました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

調査の結果、仏沼で 43 種の鳥類が確認され、そのうち国や県のレッドリスト掲載種は、サンカノゴイ・ミサゴ・チュウヒ・ハイタカ・クイナ・ヒメクイナ・アリスイ・コジュリン・オオジュリンなど 10 種でした。確認が困難なヒメクイナが平成池周辺で観察されたことと、本来は春と秋の渡りの時期にしか見られないノビタキが放牧地・採草地で記録されたことは注目に値します。オオセッカは仏沼で雄 316 羽が、青森県東部全域で雄 506 羽が確認され、雌雄は同数生息すると考えられるので、成鳥の生息数は仏沼で 632 羽、青森県東部全域で 1012 羽と推定されました。いずれも昨年から 2 割ほど減少していました。

仏沼のオオセッカは、調査を初めて実施した 1982 年

（雄 79 羽）から徐々に増加し、2011 年に過去最多（雄 690 羽）となり、その後は減少傾向が続いています。この減少の理由ははっきりとは分かっていませんが、繁殖地（仏沼）については、特別保護地区（ラムサール指定区域）の北半分で湿性草原環境の乾燥化が 2016 年から進み、繁殖活動への悪影響が懸念されています。当法人が昨年から実施している乾燥化対策事業で、乾燥化が少しでも緩和されることを期待します。

来年の調査は 2026 年 6 月 28 日の予定ですので、ご協力を引き続きお願いいたします。



写真：大澤苑美

調査で確認できた鳥一覧（43 種）

▼カモ目カモ科 | コブハクチョウ、カルガモ、マガモ ▼キジ目キジ科 | キジ ▼ハト目ハト科 | キジバト
▼ツル目 クイナ科 | クイナ、オオバン、ヒメクイナ ▼チドリ目チドリ科 | コチドリ ▼カツオドリ目ウ科
| カワウ ▼ペリカン目サギ科 | サンカノゴイ、アオサギ ▼カッコウ目・カッコウ科 | カッコウ ▼タカ目
ミサゴ科 | ミサゴ ▼タカ目タカ科 | ハイタカ、トビ、チュウヒ、ノスリ ▼ブッポウソウ目カワセミ科 | カ
ワセミ ▼キツツキ目キツツキ科 | アリスイ ▼スズメ目モズ科 | モズ ▼スズメ目カラス科 | ハシボソガラ
ス ▼スズメ目ヒバリ科 | ヒバリ ▼スズメ目ツバメ科 | ツバメ、イワツバメ ▼スズメ目ヒヨドリ科 | ヒヨ
ドリ ▼スズメ目ウグイス科 | ウグイス ▼スズメ目ヨシキリ科 | オオヨシキリ、コヨシキリ ▼スズメ目セ
ンニュウ科 | オオセッカ ▼スズメ目ムクドリ科 | ムクドリ、コムクドリ ▼スズメ目ツグミ科 | アカハラ
▼スズメ目ヒタキ科 | ノビタキ ▼スズメ目スズメ科 | スズメ ▼スズメ目セキレイ科 | ハクセキレイ、セグ
ロセキレイ ▼スズメ目アトリ科 | カワラヒワ ▼スズメ目ホオジロ科 | ホオジロ、ホオアカ、アオジ、コジュ
リン、オオジュリン

ラムサール条約登録 20 周年記念事業講演会

2025 年 11 月 8 日に仏沼がラムサール条約登録湿地に選出されて 20 年を迎えます。この節目に当たり、三沢市は記念事業を開催します。当法人ではこの記念すべき年を迎えるに当たり、三沢市に協力して各種事業に参画しています。

7 月 23 日から 8 月 1 日まで三沢市役所 1 階ロビーにて、8 月 12 日から 9 月 21 日まで三沢市航空科学館にてそれぞれ仏沼の自然やそこに棲む鳥類のパネル写真展が行われましたが、これには当法人の会員が撮影した写真も多数展示されました。

さらに、この事業の一環として来る 11 月 2 日（日）午後 1 時から三沢市国際教育交流センターにおいて記念式典が開催されます。奮ってご参加ください。

「仏沼の未来を描く～持続可能な発展を目指して～」登壇ゲスト紹介

基調講演その 1 上田恵介（日本野鳥の会会長）

基調講演その 2 呉地正行（NPO 法人ラムサール・ネットワーク日本理事、日本雁を保護する会会長）

トークセッション 上田恵介、呉地正行、塚本康太（環境省東北地方環境事務所三陸復興国立公園八戸管理官事務所国立公園管理官）、村上輝仁（三沢市立岡三沢小学校長）、フローレスともしこ（劇団シンデレラ）

2025 年 11 月 2 日（日）
13:00 ～ 16:15 参加無料
三沢市国際教育交流センター
（三沢市大字三沢字園沢）

ロンドン・ウェットランド・センターを訪れて

大澤 苑美（NPO 法人おおせっからんど 広報担当）

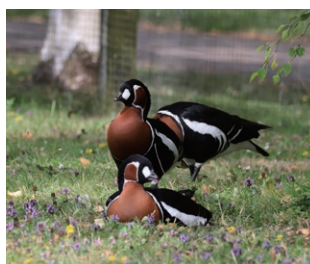
6 月にイギリスの湿地保護区「ロンドン・ウェットランド・センター」を訪れました。ロンドン中心部から 10 キロの距離、42ha の湿地公園です（仏沼は 222ha）。

もとはテムズ川の湾曲部に密集する使用されなくなった四面の貯水池だった場所を、鳥たちに最適な湿地へと整備し、2000 年に開園しました。鳥類学者のピーター・スコットが創設した Wildfowl and Wetlands Trust (WWT、野鳥と湿地の保護団体) が管理しています。

開園の 10:00 を待って、入場料（寄付つきチケットで約 18 ポンド）を払って敷地に入ると、鳥を探す意気込みが必要ないくらい、たくさんの鳥たちが自然体で暮らしている姿であふれていました。触れられそうな距離をスイスイと泳ぐカモたち、草地をヨッタヨッタと歩くガン、草藪から飛び出して目の前を飛んでいく小鳥と、彼らはいつも通りといった感じの姿で、現れます。小鳥のための餌場など、人間が用意した観察ポイントもありますが、鳥好きには "Amazing!" な場所です。

観察小屋や散歩道が整備されているだけでなく、ツアーやワークショップなど様々な学びのプログラムがあります。私は「Queer Ecology Walk」ツアーに参加。6 月が世界的にセクシュアルマイノリティについて考えるレインボー月間であることにちなみ、動植物・昆虫の性に着目して敷地を歩きました。

タワーから見渡すと、鳥の群れの奥にある住宅やビルが目に入ってきます。その光景は、鳥と人間がともに生きることを考える場所であると示しているようでした。世界の動植物の 40% は湿地に依存していて、湿地保護は気候変動を遅らせることに繋がるそうです。鳥の出会いに心躍るだけでなく、私はこの地球にどういうマインドで生きていくべきか考えさせられる旅となりました。



（左）敷地内の様子 （右）アオガン 写真：大澤苑美

教えて！野鳥撮影⑥ーレタッチー

明るさやノイズの調整で、レベルアップ

のりり：画像編集ソフトを使って、画像の濃度やコントラストをイメージ通りに調整する作業を「レタッチ」と言います。人間の目や脳というのは不思議で、カメラのレンズが捉える画像とは異なり、いわば、「脳が補正して」物を見ていっていると言われています。カメラの方がコントラスト（＝明暗差）がきつく、人間の目の方が自然に見えています。いわゆる“白飛び”で潰れているところを調整したり、主役に仕立てたいところと他の部分の差異を作ったり、ノイズを調整したりすることで完成度が高くなりますよ。

そのみん：項目がたくさんありますね…。何から手をつけたらいいでしょう。

のりり：基本的には、明るさに関するもの（明るさ、コントラスト、シャドウ、白、黒）、シャープネス、ノイズリダクションを調整してみるといいでしょう。

そのみん：では、メダイチドリで練習。全体的に明るすぎるから…明るさをちょっと下げて、でも、柄をくっきりさせたいからコントラストを強めにして、ちょっとハイライトを下げて…羽の質感が出るようにシャープネスをあげて…

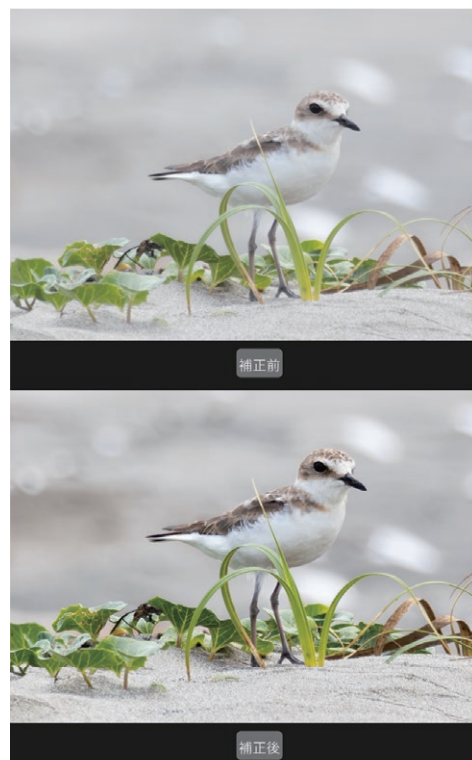
のりり：その調子です！ 最後は200%以上に拡大してノイズの状況を確認し、画質が粗い（粒子が目立つ）場合はノイズリダクションの値を調整します。

そのみん：おお！ いい感じになってきました。でも調整しすぎると、けばけばしいお化粧のような感じにもなってしまいそう。

のりり：不自然になりすぎない範囲がいいですね。

そのみん：のりり先生！ Adobeの編集ソフト「Lightroom」には、AIが被写体の同じ色調の部分認識して、明るさを自動的に調整してくれる機能もありました！ 現代的！ でも…。AIが補正したものを自分の表現というのか、難しい部分もあるなあ。表現の探索は奥が深い…。

カメラ超初心者のそのみんが、のりり先生から基本とコツを教わる紙面写真講座。



（上）補正前（下）補正後
砂浜の凹凸や、メダイチドリや植物の色味がはっきり。

お知らせ（活動報告）



■三沢市内小学校の仏沼観察会

三沢市内の3つの小学校の仏沼観察会が、おおせっからんど会員の自然観察指導員の木村貴子さんと坂本久美子さんの協力を頂いて6月に実施されました。

子供たちは教室での授業と違って、広々とした仏沼での野外活動に大喜びでした。はじめに遠くの鉄塔の上で営巢しているミサゴの巣をプロミナーで観察し、プロミナーの使い方を覚えてもらいました。それから鳥の鳴き声を頼りに姿を見つける練習をし、自分で鳥を観察できるようになりました。プロミナーで鳥をすぐそばで見られることに驚いて、自然観察の喜びを感じた子どもたくさんいました。オオセッカの鳴きながら飛翔する姿

に感動する子供たちに、自然の持つ大きな力と魅力をあらためて感じました。そして、この仏沼が私たちの身近にあって、自然学習の場として活用できることに感謝した次第です。

仏沼が三沢市の宝としてたくさんの鳥たちの生活の場として活用され、また多くの方に気軽に自然と触れ合う場として訪れてもらいたいと思っています。

〔実施実績〕

◇三沢市立岡三沢小学校

2025年6月18日、23日、24日

◇三沢市立上久保小学校

2025年6月22日、25日

◇三沢市立おおぞら小学校

2025年6月30日

■三井住友海上火災保険との交流

2025年7月12日（土）法人会員の三井住友海上火災保険株式会社青森支店八戸支社の皆さんが社会貢献活動として仏沼野鳥観察ステーション周辺のごみ拾いにいらっしゃいました。活動の後には昼食会を通じて交流を深めました。



制作発行：特定非営利活動法人おおせっからんど
〒031-0823 青森県八戸市湊高台三丁目15番5号
Mail: mori.degawa@gmail.com
Web: <http://www.oosekka.com>
編集：蟹沢格 紙面デザイン：大澤苑美

編集後記：

文化芸術の秋らしく、仏沼ラムサール条約登録20周年イベントが盛大に開催されます。写真多数の三沢航空科学館パネル展もお楽しみに。（蟹沢）
ロンドン・ウェットランド・センターで一番目立っていた鳥は、緑色のホンセイインコ（野生）でした。鳴き声も立派（けたたましい…）。（大澤）